

ニポリジック News Paper

2015年9月16日号 創刊号

発行/編集 車に関する研究とジャーナリズムについて考える会
〒342-0041 埼玉県吉川市保780-17 (ノッシー企画 カービート統括本部内)
事務所連絡先 ☎ 090-3695-9731 mail: info@npo-rjc.com 発行部数 1000部
(討議資料)

Nippon poritical organization

npo-rjc

car Research & journalism company

あれから4年半 何が変わった？

2011年3月11日、あの日の出来事は埼玉県吉川市に住む人だけでなく、日本中の人々の価値観を変えらるほど、衝撃な出来事であったことは、誰しも思うことだろうし、私もその一人だ。確かに平成に入ってからというものの、「お金」さえあれば天国、世の中を悠々に生きてゆけるといふ「拝金主義」思想が蔓延し、利己主義なお偉い人たちが「また頭が良い人たちが」「いつか」「誰かが」「どこか

で」「ウマイ具合に」「何かを」やってくれる間に儲ける仕組みばかりを、追求していったような気がしてならないのだ。しかし相次ぐ天災により、そうした思想はもろくも崩れてしまい、結局のところ「信じられるのは自分だけ」という諦めの空気が強く漂うような感じがする。政治、それも選挙における投票率は相変わらず。近年では50%以上の有権者が投票に足を運ぶと、「政局に

プロジェクト YOSHIKAWA ～クルマが過ぎてゆくだけの吉川市の町おこし企画～ 東日本大震災の追悼を込めて

第2回/吉川市では2月に市長選、3月に東北関東大震災で大きく揺られて、岐路に立っている。老若男女に関係なく、このタイミングでこれだけ1つになることができるのか？ そのために1人1人が何をやっていくべきか？ それらに注目していきたいと思う。



REPORT: 太田政克 (ノッシー企画)
PHOTO: 中野 茂 (太田政克) (ノッシー企画)



今こそ1つならなければならぬ時期になってきたと言えらるだろう。埼玉県吉川市。なますの街にしようとしていたが、残念ながら今もつらさがあるという現状である。さらには問題なのか、ほとんどの人が吉川市に住んでながら、あまり吉川市に対して興味を持っていないこと。せいか吉川市に在るよりも、東京などに出かけていく方が有益であると考え、あまり吉川市に根づいて何かをするような意識が低く、あまり吉川市のことについて考えようとしていないのだ。しかし、2011年2月20日の吉川市の市長選挙、そして先日の3月11日に発生した東北関東大震災により、自分の住んでいる吉川市がどういふのか、また隣近所の人たちが今まで全く知らない状況であったことに対して、愕然とする人や不安に陥る人などが表れ、自然発生的に「吉川で1つになるうせ」という声が高まってきた。そんな吉川市を流れる紹介しながら、今回の東日本大震災に被害を被られた方々に対して、これから吉川市へ避難のためにやってくる人のために、市民の1人としてメッセージを送りたい。

最初はたった1人で活動を始めたが、今や心をともにする「志」を持った仲間が全国にいる。

大きな影響がある」と言われるしまう。でも代わり映えしない。だが、待っているだけでは何も変わらない。自分たちで行動しなければ、動かない。そこで、もともとクルマ好きな仲間たちが集まり、「何とか世の中を変え

無いと困るもの それはクルマだ

て元気にしよう」「クルマが元気になれば日本が元気になる。クルマ文化が盛り上がるれば希望あふれる日本ができる」という意気込みの下、2015年6月16日に「車に関する研究とジャーナリズムについて考える会」を結成し、設立した。

ご存知のように、日本の基幹産業はクルマである。また日本にある登録台数は約8000万台、すなわち国民の15人1台の割合でクルマを所有している。だから、誰もがわかる。くわえて自動車産業に従事する労働者は8%であるが、コレに鉄鋼業や電子機器産業、ガラス、プラスチック、繊維などなどをクルマに使用されている約3万点以上の部品に関わっている労働者、輸送従事者、ガソリンスタンドの店員、道路を建設する土木、作業者などと言ふように少しでもクルマに関わっていく労働者を足していくと、下手すると日本の労働者の約40%近くが何らかのカタチで、クルマに携わっている。さらには財務省や総務省の資料によると、2014(平成26)年度日本における税収全体の約9.7%が自動車関連連税(約8兆6082億円)と、消費税の税収(約16兆)の半分、あるいは固定資産税(約8兆7057億円)の約9.8%のほぼ変わらない税収があるのだ。と、ここで9月10日未明の豪雨により、茨城県常磐市



クルマが潰れると元気を失ってしまう人が多いような...

では堤防が決壊、多くの人や建物などに被害が生じた。これは誠に残念なことであり、被害に遭われた方々には、お見舞い申し上げます。気持ちでイッパイである。そうしたなか、取材に現地に入っているジャーナリスト仲間の話によると、水や清掃用具の他に欲しいものといえ、移動手段となる「クルマ」が欲しいという声を、よく耳にするとのこと。コレは東日本大震災でも、東北の被災に遭われた方々からも、よく言われたこと。すなわち自力で自分の思ったように移動できれば、水も食料も家財道具も、そしてお風呂にだって行ける。自由に移動ができるないことが、とても不自由な感じてストレスになっている人もいそう。このように日本人の生活の中には、「クルマ」という存在が大きい。そこで次号のニポリジック新聞では、どれだけ我々の生活に「クルマ」は欠かせないものをレポートしたい。(ノッシー)